

インディペンデントシアター公演実施ガイドライン Ver.2 2022.3.22 改訂

新型コロナウイルス感染症との闘いも2年を過ぎました。状況は一進一退を繰り返しながら安定しませんが、ワクチン接種の進行や治療薬・治療方法が徐々に進展してきたことから、少しずつ上向いてはいます。

しかしながら新型株が拡散するなど、人々の健康や経済活動に打撃を与える危険な状況が続いている事には変わりありません。油断することなく、公演関係者と来場者の健康と安心を守り、表現活動を継続していけるように、現在の状況に合わせて、当劇場の公演実施ガイドラインを改訂いたします。

このガイドラインは、公演の主催団体に関しては準備段階と劇場使用前後、ご来場頂くお客様にはご来場前後にお守り頂く内容となります。

劇場・劇場利用者・観客の三者でガイドラインをお守りいただくことで、劇場での感染リスクを可能な限り下げの方策です。

このガイドラインも今後の状況の変化や、他劇場・他業界の事例などを踏まえて変更される場合がございます。劇場のご利用・ご来場前には、変更が無いか再度ご確認ください。

※重要なポイントや改定で追加記載・修正された項目などは**赤文字** となっています。

●公演実施団体をお願いする事(前提)

- ・下記の対応を行っていただけない場合、公演の実施をお断りいたします。
- ・公演関係者全員が公演の実施・参加に同意している事を事前に必ず確認してください。
- ・緊急事態宣言の発出などに伴い、劇場を休館(=公演を延期・中止)あるいは、開演時間・客席数上限の変更をせざるを得ない可能性があります。それらの指示・要請にはお従い下さい。

公演準備開始フェーズ

●公演関係者全員に、公演の実施や参加について同意しているか改めて確認する。

●稽古場、劇場に出入りする出演者及びスタッフ全員の感染リスクを確認する。

公演の準備を開始するにあたって、稽古場・劇場に出入りする公演関係者全員(仕込み・バラシ・受付等で一時的に参加する人も含めて)が、感染が確認された場所、感染された方、及びその濃厚接触者の方と接触していないことを確認する。また過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域へ訪問していないかも確認し、公演準備開始以後はそれらの地域を訪問しないようにご注意ください。その後も随時確認を継続し、該当したタイミングですみやかに劇場に相談し、公演の実施・中止・延期について協議します。

●公演の実施に関わる人はワクチンを接種する。

ワクチンを2回以上接種した人の感染者発生率や重症者数は接種していない場合に比べて、明確に低下していることがデータからも明らかです。公演関係者間はもちろん、公演関係者から観客に感染する事は絶対に避けなくてはなりません。公演に従事する人は原則としてワクチンを接種するようにして下さい。(ただし、ワクチンの接種に関しては自由意志であり、健康上の理由から接種できない人もいる点には配慮して下さい。)

公演稽古フェーズ

●稽古段階で注意すべきこと。

稽古段階で感染が発生しては公演実施できませんので、感染防止策にしっかり取り組んで下さい。劇場入り前の事ですので強制ではありませんが、**演劇界全体で取り組むべきスタンダードとして確立されつつあります。遵守して下さい。**

- ・稽古での密集を避けるために、普段よりも少しサイズの広い稽古場での稽古を検討する。

- ・稽古開始時に参加者全員の検温を実施し、37.5 度を超える場合は、その日の参加を見合わせる。
- ・いわゆる新型コロナが疑われる体調(発熱・咳・倦怠感・味覚障害など)がある場合は稽古参加不可。
- ・陽性者や濃厚接触者が発生した場合には、すみやかに劇場に報告するとともに、稽古を一時中断し、関係者に抗原検査や PCR 検査を実施するなどの安全確認を実施し、慎重に稽古を再開する。必要な場合には保健所等の指示を仰ぐ。
- ・可能な限り稽古場に入る前に手洗いうがいを実施する。
- ・稽古の際、自身の出番以外ではマスク着用を原則とし、待機場所では各々なるべく距離を取り密を避ける。
- ・マスクは鼻にフィットさせしっかりとした着用を徹底し、できるだけフィルター性能の高い不織布マスクを使用する。
- ・作品の最終仕上げまでは、割り稽古など稽古場の人数や接触をなるべく少なくする工夫をする。
- ・喫煙所や休憩所など、マスクを外す場面では原則 1 名ずつでの利用とし、複数で使用する場合は会話などを制限する。
- ・稽古後のミーティングなどはなるべくオンラインなどを活用し、稽古後の飲食交流なども避ける。

劇場入り直前フェーズ

●公演関係者(劇場入りする人)に抗原検査や PCR 検査を実施する。(推奨)

小屋入りの数日前や、小屋入り直前に公演実施の最終の判断材料として、抗原検査や PCR 検査の実施を推奨します。ただし検査結果も完全とは保証されず、また予算上の制約もあると思われるので、必須ではありません。

●公演関係者のリストを提出する。

劇場入り初日朝までに、公演関係者のリストを提出して下さい。キャストやメインスタッフだけでなく、仕込みやバランのみに参加する増員やお手伝い、受付運営や撮影収録のみに参加する人も含め、劇場利用期間中に出入りする人全てを網羅して下さい。リストには、氏名・電話(携帯)番号・役職・劇場滞在予定日時に加え、万一の場合、該当者の居住する管轄保健所等に速やかに連絡が取れるように住所を含めて下さい。

●劇場利用期間中の消毒備品や衛生用品などをしっかりと準備する。

マスクやアルコール消毒薬など、公演期間中に不足したりしないように十分用意しておいてください。感染状況などが急速に悪化し、入手困難になる場合などもあるので、事前の準備が重要です。劇場でもある程度備蓄していますが、あくまで緊急用とご理解下さい。

また、公演中の万一の関係者の体調不良などに急ぎの対応ができるように抗原検査キット・PCR 検査キットなどを用意しておく、公演中止・続行の判断を助けリスクを回避できる可能性があります。

●大阪府指定の「感染防止策チェックリスト」を準備する。

大阪府が策定している「感染防止策チェックリスト」を記入し、主催団体のサイトや SNS などでお客様に周知して下さい。公演当日はロビーや受付に掲示して下さい。(公演後も 1 年間の保管が要請されています。)

チェックリストや、使用方法は下記に記載されています。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shobobosai/eventkaisai-taisaku/index.html> (大項目3の部分)

劇場使用フェーズ

●出演者及びスタッフは、自身の健康状態をシビアにチェックし、少しでも不安要素のある場合は冷静に申告し、降板や公演の中止を検討してください。

劇場にいる公演関係者全員は毎日検温をおこない、記録を付ける。(基本は小屋入り時、夕方頃、本番前)

風邪などの症状や 37.5℃前後(あるいは平熱から 1℃以上プラス)の発熱、咳、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ、味覚や嗅覚の異常などがある場合は、団体の責任者に申告する。申告があった場合、団体の責任者はすみやかに劇場に相談し、以後の対策や、公演の続行・中止・延期について協議する。

●劇場施設内ではマスク着用のうえ、相互になるべく距離を取って下さい。

原則舞台上(リハーサルや本番)以外の場面では、基本的にマスク着用とし、人と人との距離もなるべく取って、密になら

ないように注意し、舞台上以外での濃厚接触を避けるように気を付ける。**マスクは正しく着用するよう、お互いに注意しあう。**

●炊き出し・大皿料理の提供をおこなわず、弁当など個包装されたものでご対応ください。

飛沫感染・接触感染の可能性を最小限にするため、公演期間中は炊き出し・大皿料理等の形式での食事をおこなわず、弁当など個包装されたもののみとする。関係者やお客様からの食べ物の差し入れも個包装されたもののみ受け取ることを推奨する。また食事の際は各々距離を取ったり対面しないようにするなど工夫して黙食し安全に努める。

飲食物に限らず、ゴミは量が少なくても毎日劇場退出時に指定場所に廃棄する。ゴミの取り扱い時にはマスクを必ず着用し、作業終了後には手洗いをを行う。

●劇場の換気等を十分に行い、清掃や消毒など可能な限りの感染予防策をとってください。

リハーサル中、上演中とも劇場内の換気扇は常時 ON としておく。当劇場は客席はもちろんロビーや楽屋にも基準をクリアした換気設備が設置されています。こちらも常時使用し換気に努める。また開場前や公演終了後には客席内・トイレ・ロビー等関係者・お客様が接触する範囲の清掃や消毒などをおこなう。

また可能な場合は、上演中のドアを開けた換気や休憩も検討する。**ただし休憩が入ることによる観客同士の接触や会話が発生する事のリスクとのバランスには十分留意**すること。劇場も相談に乗ります。

また受付・入場時の手指消毒以外にも、必要に応じて劇場施設の随所にお客様が使用できる消毒液などを用意する。

●お客様の接客にあたるスタッフは、必ずマスクを着用してください。また、一般的な咳・くしゃみエチケットを主催者・観客ともに厳守するように呼び掛けてください。

お客様の接客にあたるスタッフは、必ずマスクを着用する。受付は、原則として劇場で用意した飛沫防止ビニールを施工したカウンターを使用する。ご来場のお客様にもマスクの着用をお願いし、マスク着用にご協力いただけないお客様にはご入場を辞退して頂く。(団体側で配布できるマスクを用意してお使い頂けるように準備するのを推奨します。)

団体側で可能であれば、当日窓口の混雑を防ぎ、お金のやり取りなどを減らすために、予約時の事前決済や窓口でのキャッシュレス決済を利用する。(公演計画時にあらかじめご相談頂ければ劇場側でアドバイスや対応できる場合があります。)半券などお客様にお渡しするものも安全かつ最小限にできるように工夫して下さい。

●受付や客席入場の整列は十分な距離を取れるようにお客様を誘導して下さい。

受付や、客席に入場する列は、お客様同士の間隔が十分に取れるように、整列の案内をしてください。わかりやすく案内するための表示の一部は劇場でご用意します。可能であれば、検温などに伴う受付の混雑を緩和するために、受付時間を早めに設定し、また受付後速やかに客席に入場できるタイムスケジュールの設定をご検討下さい。

●発熱・咳・全身痛などの症状で体調のすぐれないお客様には、ご来場を辞退していただいでください。

発熱、咳、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ、味覚や嗅覚の異常などの症状で体調のすぐれないお客様にはご来場を辞退していただくように事前に案内をおこなう。また、**公演当日は受付前に検温器にてお客様全員の検温をおこない、37.5℃(あるいは平熱よりプラス 1℃)以上のお客様にはご入場を辞退していただく。**

体調不良の来場辞退や、当日検温での辞退などのお客様には払い戻し等で不便の無いように配慮してください。

●客席数の設定は、感染拡大状況により、行政や劇場の要請に従って、設定して下さい。当日券の販売は慎重に。

行政の指導や要請によって、客席数の削減を行う場合があります。状況は常に変化するので、チケット発売前に必ず劇場に再確認してください。これまで当劇場では、お客様の安全と心理的な安心にも配慮して 50%→75%と慎重に客席数を緩和してきましたが、2022年3/22以降、条件付きで原則として100%使用可能とします。(しかしながら如何なる状況でも

舞台ツラもしくはアクティングエリアから客席最前列の距離は 2m 以上とします。2nd では舞台の組み方で舞台ツラが変わり席数が増減するので、必ず劇場にご相談下さい。)

ただし事前の予約数等と当日券の見込み数が 100%に満たない場合で、自由席あるいは主催団体が配席する形の指定席の場合は、一部の客席を使用不可として間引くなど、隣の空いた席をつくり、客席の密を防ぐと共にお客様の安心に配慮して下さい。また、お客様に「隣の席が空いている状態」などのように明示して販売済みのチケットに関しては、後からの座席設定変更は認められません。

当日券を販売する場合は、希望者の殺到で密が発生したり、規定席数を超過して入場できない事態が発生したりしないように、予め正確な販売数を告知したり、開演数時間前までの当日券予約の方式を取るなどの対策をとり、不用意にお客様の来場リスクが発生する事の無いように十分配慮して下さい。また以下にあるように当日券のお客様も予約のお客様同様、必ず来場者情報の記録が必要です。

●来場者を確実に把握、必要時には連絡できるように準備して下さい。

万一の感染発覚の際にご来場されたお客様に確実に連絡が取れるように、来場者名簿を整備して下さい。基本的にご予約受付時に**お名前・お電話番号・メールアドレス**を控えて下さい。(ご予約フォーム等でおお客様にご記入頂くようにすれば、新たな作業はほぼ発生しません。)予約 2 枚で同行者ありなどの場合には、当日受付で同行者の方の連絡先も必ず記録するようにしてください。小劇場では芸名を使用している方も多いため、必要な場合にはご本人に確認するようにしてください。また、保健所に確認しましたが、**名前と電話番号はマスト**です。メールアドレスのみは連絡が確実ではないので NG との事でした。

来場者名簿は個人情報となりますので、団体側で厳重に管理して下さい。公演後 1 か月以上は保管し、以後適切に処分して下さい。また、当劇場は「大阪コロナ追跡システム」に登録しています。お客様の安全のためにも可能な限りご来場時の登録を促して下さい。接触確認アプリ「COCOA」などを使用する方が居るため、前説等で携帯電話のご案内をする場合は、マナーモードかつフライトモードなどの音や光を発しない状態を推奨して下さい。

●マスクの正しい着用や、客席・ロビー内での会話の制限などをお客様にうながして下さい。

マスクは正しく着用していなければ効果を発揮しません。鼻が出ているなどマスクの着用が適切でないお客様は、周囲のお客様に不安や不信感を与え、またお客様同士の不要なトラブルなどに繋がる可能性もある為、客席誘導スタッフなどが毅然かつ丁寧に注意するようにして下さい。またお客様同士の客席内やロビーでの会話も節度を保って抑制するように周知して下さい。周囲のお客様が不安や不快に感じるような場面では、お客様に注意をうながすようにして下さい。

●劇場退出時に、混雑緩和のため「規制退場」を検討して下さい。

劇場の出入り口や移動ルートは限られているため、一斉に退場すると混雑(密)が発生する場合があります。お客様の人数などによっては、列ごと、エリアごとなどにスタッフがご案内してご退場頂く「規制退場」の実施を検討して下さい。その場合、お急ぎのお客様は先に退場できるように配慮・対応して下さい。

●出演者による面会、グッズ販売はおこなわないでください。

感染のリスクをできるだけ減らすため、終演後の面会や出演者によるグッズ販売等、お客様と出演者が接触するような行為はおこなわない。グッズ販売は事前や事後のオンライン販売などを工夫するか、当日実施する場合は、制作・受付スタッフ等限られた方のみで感染防止に努めたいうたでおこなう。アンケートなども、基本的には客席やロビーでお書き頂く方式ではなく、オンラインアンケートや SNS などの方法を工夫して下さい。

●プレゼントや差し入れなどはなるべく辞退して下さい。

種々のリスクを避けるため、原則として差し入れの受け取りは辞退して下さい。ただし劇団・主催団体の慣習や方針で差

し入れの受け取りを実施したい場合は、以下の点に注意し、お客様にも周知して下さい。

- ・本人への直接の受け渡しはできない旨を周知し、できればロビー設置のプレゼント BOX などを使用する。(双方の安全の為にロビースタッフなどの接触機会を軽減する)
- ・差し入れやプレゼントは、本人に渡す前に制作スタッフが確認し、手作りの食品や安全の確認できないものなどは渡せない(場合により破棄される)可能性があることを周知。
- ・受け取りの範囲などでお客様に不信感を与えないように配慮し平等に対応する。

公演終了後フェーズ

●公演終了後の健康状態を確認し必要があれば劇場に報告する。

公演関係者は、公演が終了しても油断せず、各自が感染防止に取り組みつつ仕事や活動に取り組んで下さい。特に公演の疲れや油断などで感染するリスクに気を付けて下さい。公演終了からおおむね 2 週間経過時に公演関係者に再度の体調確認を行い感染の心配がないか確認してください。不安要素がある場合は即座に劇場に報告して下さい。また、お客様からのご来場後の体調不良や感染報告があった場合には必ず劇場にも情報を共有して下さい。

消毒薬などの衛生用品は劇場でも準備いたしますが、商品不足等で劇場備蓄も不足する場合がありますので、団体側でもご用意にご協力をお願いいたします。検温器等は、使用中の故障などのトラブルに対処するため、原則使用するのは利用団体のもの、劇場のものはトラブル時の貸し出し用のバックアップとお考え下さい。

劇場の消毒や清掃は、劇場スタッフのみでは手が足りない場合があるので、利用団体のみなさまにもご協力をお願いいたします。

インディペンデントシアター

参考資料

●大阪府「イベント開催等における感染防止対策について」

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shobobosai/eventkaisai-taisaku/index.html>

●(公財)全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン改定版」

https://www.zenkoubun.jp/covid_19/files/1015covid_19.pdf

●緊急事態舞台芸術ネットワーク「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン(第四版)」

http://jpasn.net/stage_guideline211021a.pdf